

社団法人 日本ジュニアヨットクラブ連盟

平成21年度第二回通常総会議事録

日 時 平成22年2月20日（土）10時30分～13時00分
場 所 (財)ブルーシーアンドグリーンランド財団 本部会議室
東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル9F

1. 定 足 数 の 確 認

出席会員17名、委任状36名、合計53名。従って正会員現在数82名の2分の1を超えて第28条（総会成立）の定足数に達しており、本総会の成立を確認した。

2. 開 会 の 挨 拶 佐藤 精知夫 副会長

石原会長が公務で欠席のため、佐藤副会長が開会の挨拶を行った。

3. 佐藤副会長 挨 拶

昨年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、2016年東京オリンピック招致活動を応援して、IOCでも有力なベルギー、デンマーク、イギリス、イタリア、シンガポールを含む8カ国の外国チームを招待して、内外共に評価を得て大成功で、皆さんご苦労様でした。今年は、新しい大会も計画しているので是非みんなで努力して成功させましょう。

尚、石原会長の秘書木村 仁氏が代理出席しご挨拶され、会長の公務の現状説明と会長よりのメッセージ(現在バンクーバー冬季オリンピック開催中だが、どのスポーツも少年時代からの取組みが重要との認識なので、当連盟の役割が大事であること)が伝えられた。

4. 来 賓 の 祝 辞

(1) (財)日本セーリング連盟にご出席とご挨拶をお願いしたが、(財)日本セーリング連盟の理事会、評議員会と重なり、会長、副会長、専務理事いずれも出席が無理につき皆様に宜しくとの事だった旨説明あった。

(2) (財) B&G 財団にも代表の方にご挨拶をお願いしていたが、広渡専務理事も出張で、昨年は代理でご挨拶頂いた朝比奈課長も休暇中でどなたもご挨拶頂けない旨説明あった。尚、今回以降の総会について、土・日・休日の場合はこの会場が使用出来なくなったのだが、財団の格別のご配慮で、今回も会場をお借りする事が出来た旨報告された。

5. 議 長 選 出

定款第26条により会長が議長となる所公務により欠席のため、定款第14条の2により、佐藤精知夫副会長が議長に選出された。

6. 議 事 録 署 名 人 選 出

定款第30条による議事録署名人選出は議長一任の議決により、以下の2名が議長より推薦され全会一致で選出された。

滝川 宗一 氏（江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ代表）

近藤 哲弘 氏（夢の島ヨットクラブ代表）

7. 報告事項（その1）

（平成22年度事業計画書(案)、同収支予算書(案)の説明を理解しやすくする為、平成21年度中間事業報告書及び同中間財務諸表を先に説明報告する事とした。）

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成21年9月末までの平成21年度中間事業報告書及び中間財務諸表について説明がなされた。

平成21年度の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009は、2016年東京オリンピック招致活動への協力の一環として、東京都、(財)日本セーリング連盟、東京都ヨット連盟との共同主催にて外国10チームを招待（結果は新型インフルエンザの為2カ国が直前キャンセル）して東京都若洲ヨット訓練所で開催し、東京都ヨット連盟の大変な尽力で外国チームへのアピールも充分出来て成功裏に終了しました。

第29回日本少年少女オープンヨット大会は山梨県山中湖村の東日本地区大会と広島県広島観音マリーナの西日本地区大会として同時期に開催しました。東日本地区は選手89名で、OP級、シーホッパー級、ミニホッパー級、レーザー級、FJ級と各艇種が参加し、総勢200名余の大会となり大成功で終了しましたが、西日本地区は例年通り同時期にJSAF主催のユースセーリングチャンピオンシップが唐津で行われたのでシーホッパー級、レーザー級の参加が全く無くなり、OP級初級者、上級者だけの57艇の参加となりました。

アサヒ飲料(株)、(株)ライフサイエンス研究所とも引き続き賛助会員としてご支援が頂けることになりましたが、アサヒ飲料(株)からの普及水域大会への協賛金はご支援頂けませんでした。

三起商行(株)からは引き続き東京若洲でのジュニアヨット国際親善レガッタにご支援頂き、ミキハウスカップ2009を9月に開催しました。

アビームコンサルティング(株)には、全国大会への特別協賛は継続して頂いており、今後も引き続きご支援頂けることとなっています。

以前からご支援頂いているエスピー食品(株)、第一三共(株)、大塚製薬(株)にも引き続き後援して頂けます。

平成21年9月末の中間財務諸表では、特別会計Ⅰ（全国大会）、同Ⅱ（東西日本地区会、同Ⅲ（ミキハウスカップ）については、既に各大会とも終了し、収支決算も確定していますが、一般会計は、普及水域大会関係以外は概略収支予算書に沿って推移しており、最終的な平成21年度財務諸表(案)については、本年6月開催予定の通常総会で、承認を

頂く予定です。

未収年会費も10月以降に大部分が入金頂き、後わずか12クラブの代表者が未納です。

8. 議案審議

1) 第一号議案 平成22年度事業計画書(案)承認の件

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成22年度事業計画書(案)の説明を行った。

昨年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009は、2016年東京オリンピック招致支援活動として競技会は成功したが、オリンピック招致は結果としてはブラジルのサンパウロに負けてしまった。招待した外国チームも日本の選手も、又若洲でレースをしたいという声もあり、2013年の第68回国民体育大会(東京都)セーリング競技会場予定地は若洲のため、東京都ヨット連盟に協力をお願いし、本年の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010を再度若洲ヨット訓練所で共同開催することに決まりました。

又、新しい試みとして、後述の検討中の新企画の第1段階となる、国内ジュニアヨットクラブ対抗レース優勝チームの選手の海外研修派遣(往復旅費連盟負担、現地ホームステイベース)を実施します。

5月連休に開催の東西日本地区大会として開催してきた日本少年少女オープンヨット大会は、全国大会として一本化し江ノ島で開催することとしました。

6月第2週には新しい大会として、ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会(中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会)を、鳥取県米子市で、鳥取県と島根県の両県知事はじめ地元の皆さんが実施している「中海・宍道湖一斉清掃活動」に参加しながらヨットレース大会を開催する計画です。

後ほど報告事項で詳しく説明する「定款細則附則の決定」によって、各登録クラブに負担金をお願いすることになったので、期限までに各クラブの所属ジュニアセーラー名簿の提出と負担金の納入に協力をお願いします。

諸外国との親善交流活動として、毎年、登録クラブからジュニアセーラーを数名推薦して頂き、連盟が往復旅費を負担し、現地ではホームステイ、練習・レース参加、社会見学等の海外研修をするプロジェクトを具体化すべく、予算措置、受け入れ先等を含めて検討を開始する事を企画しています。

その後、議長より第一号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

2) 第二号議案 平成22年度収支予算書(案)

伊藤専務理事より配布資料に沿って平成22年度収支予算書(案)について説明を行った。一般会計、特別会計Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのそれぞれにつき説明した。

一般会計は、アサヒ飲料(株)にも再度協賛をお願いする計画でほぼ例年通りの予算とし、

特別会計Ⅰの全国大会は昨年度が東京オリンピック招致活動で大きな予算だったが本年度は従来通りの予算となっていること、特別会計Ⅱのオープン大会は全国大会のため昨年度の東西日本地区大会単独よりは大きく、合計よりは小さい予算となっている。特別会計Ⅲは第20回大会という記念大会として少し規模を大きく企画し、特別会計Ⅳは新大会です。

その後、議長より第二号議案の承認を求めたところ、全会一致で承認可決された。

議長は、以上をもって平成21年度第二回通常総会の議案の審議は全て終了したので午後1時閉会を宣した。

9. 報告事項（その2）

1) 登録クラブの負担金に関する定款細則附則の決定について

伊藤専務理事より、配布の報告事項「定款細則附則の決定について」に沿って、附則決定に至る理事会での昨年夏からの議論について説明し、本年1月理事会で最終的に決定した内容、及び本制度導入により、本年度からの国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会の参加申込み時に参加料と一緒に徴収していた選手登録料を廃止し、又希望があればJSAF登録を連盟が費用を負担して登録申し込みをすること等詳細に説明し、中川理事より、配布資料によって本制度の得失につき解説をした。

2) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2009(東京若洲大会)実施報告と国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010(東京若洲大会)について

東京都ヨット連盟落合光博副理事長より、昨年の競技会が成功裏に終了したことと、本年度も引き続き東京都ヨット連盟として共同主催することを決定したこと、既にJJYU担当とも準備委員会発足に向けて打合せを開始している旨報告があった。本年度の開会式・国際交流会の会場となるマリナーズコートと宿泊ホテルの東京海員会館（ニューオープン）のパンフレット等により準備状況の説明が行われた。

玉置担当理事より例年通りにスポーツ振興基金助成の申請をした旨報告された。

3) 第30回日本少年少女オープンヨット大会（全国大会）について

熊川委員より、レース公示(案)を配布して準備を開始している事、藤沢市長と藤沢市観光協会をJJYU佐藤副会長、伊藤専務理事と一緒に訪問し後援の要請をした事を説明した。

今年が藤沢市の市制70周年記念に当たるので、市制70周年記念のタイトルを入れて貰えれば何か後援が出来るという市長の要望なので了解をしてきた旨説明あった。

4) ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会 2010 (中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会) について
内藤理事より、5月の西日本地区大会について本年は開催を引き受けるクラブもないことと、5月では選手が集まらないことから6月第2週の中海・宍道湖一斉清掃活動と連携してヨット大会を開催して選手を集めたいと考えて、JJYUの中で検討して貰って企画した。地元の環境省出先事務所に相談し、又 JJYU 本部にもお願いして、環境省の後援、環境大臣賞も頂けるようにしたいと考えている旨説明あった。

5) 第20回ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ2010)について

森田委員より、今年は第20回の記念大会として、日程も変更して外国選手の参加を増やすことを積極的に行い、大きな大会にしたい旨説明があった。

10. 閉会の挨拶

司会進行の吉村事務局長よりこれで総会での報告事項が終了したことが案内された。
最後に、佐藤副会長から閉会の挨拶があり、散会した。

(13時00分に終了する。)

上記の決議を明確にするため、議長及び議事録署名人は記名、押印する。

平成22年2月20日

議長

東京都杉並区本天沼3-23-2

佐藤 精知夫 (印)

議事録署名人

東京都江東区南砂1-5-30-1315

滝川 宗一 (印)

(江東区ヨット連盟ジュニアヨットクラブ代表)

議事録署名人

(住所)

近藤 哲弘

(夢の島ヨットクラブ代表) (印)

